



発行所
安芸郡芸西村
芸西病院
TEL 0887(33)3833

発行責任者
山崎 一明
http://okura-kai.com/
geisei/



院長就任のご挨拶

山崎 一明

新型コロナウイルス感染の第8波も感染者は減少し、政府は5月8日に季節型インフルエンザ感染症と同じ類型「5類」への引き下げを決定しました。とはいえ高齢者や持病をお持ちの人は重症化リスクが高く、新たな感染症にも留意しながらこれまで同様感染防止策の継続が大切だと思います。

私はこの4月より、岩村久前院長の後任として芸西病院の院長に就任いたしました。高知医科大学（現在の高知大学医学部）で研修を終え、医師になり4年目の平成元年9月から芸西病院で内科医として勤務を始めました。それから約34年経とうとしています。当時経験は少なく、大した技量を持たない若い医者を職員の間で支えてくれ、患者さんたちも気長く付き合っ

て下さいました。そのおかげで現在までやってこられたと感謝しております。最近は、親や祖父母を診てもらったと話される患者さんもいます。長く芸西病院に勤めていることを実感するとともに2世代、3世代と受診していただいていることを嬉しく思います。日本では人口の減少が始まり、少子高齢化が進んでいきます。2025年には約800万人の団塊の世代の方が全て75歳となり、後期高齢者は約2200万人を超える超高齢社会になります。既に地方の高齢者人口割合はピークに達しているとも言われています。

当院のある高知県東部も例外でなく要介護者の増加を実感します。超高齢社会では治す医療から支える医療を充実させることが必要となります。当法人にはグループホー

ムげいせい、介護老人保健施設リゾートヒルやわらぎ、訪問看護ステーションげいせい、居宅介護支援事業所みずぎがあります。これまで以上に医療、介護、福祉の連携を強め切れ目のないサービスを提供していきたいと思っています。

より良い医療、介護サービスを提供するためには職員がストレスなくパフォーマンスを発揮できる職場環境改善が必要です。我々の周囲が劇的に変化の中で当院もこれらの変化に対応できるようにデジタル化やICTを利用活用して、無理や無駄のない職場とし、働きがいのある病院、働き続けたい病院、就職したい病院と変えられたらと思います。

微力ではありますが、これからも皆様から信頼される病院になるよう、地域医療に貢献できるように力を注いでまいります。前院長同様、ご厚誼ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

退職のご挨拶

岩村 久

この度令和五年三月末をもって退職いたしました。

昭和六十二年九月、みず



(左)岩村前院長 (右)山崎新院長

き芸西病院に入職し、平成三年七月、塚本宗之先生の跡を継ぎ院長に就任しました。当時の野市町にあった兼山庄で盛大に祝賀会を開催していただいたことが懐かしく思い出されます。三十六歳の若さ

創立20周年記念誌(1998年発行)より

で、医者になって十年目の未熟者が院長になり瞬く間に三十一歳経ちました。患者様に多くのことを教えられながら、それを十分に活かすことが出来たことが悔やまれます。ご家族様には「診察に愛がない」とお叱りを頂いたこともありましたが、なんとも頼りない院長でしたが職員の皆様のおかげで支えられたことができました。みずき会、おくら会の職員として同じ時間を共に過ごせたことを嬉しくそして誇りに思います。私はこれで去っていきますが、おくら会として芸西病院だよりをこれからもよろしくお願ひいたします。皆様の末永いご多幸を祈念して簡単ですが退職の挨拶いたします。ありがとうございました。



職員総出で作った桜の花吹雪が舞う中での退職セレモニー
皆、院長先生が大好きでした

発達障害エキスパート事業

乳児健診への関わり

理学療法士 小松 勝人

現在、私と近藤友香（リハビリテーション部）は、南国市、香美市、東洋町の乳児健診において運動発達相談や遊び方の指導などを担当しています。これは、高知県発達障害早期支援エキスパート（以下、エキスパ）事業の取り組みの一つです。エキスパ事業とは、市町村が実施する発達障害のある子ども、または発達障害の疑いがあり、何らかの支援を必要としている子どもを対象とした早期発見・早期支援の事業に対し、助言または技術援助等を行うものです。この事業に参加するには、県よりエキスパの認定を受ける必要があります。エキスパの認定を受けるには、エキスパ養成研修を受けること、もしくは既に市町村などにおいて発達障害児等への早期支援を行っていることが条件となります。認定後は、エキスパを活用したい市町村に対し県から派遣される流れとなり、このような取り組みによって乳児健診に参加しています。

乳児健診では主に、4か月児、10か月児を診ており、4か月児はうつ伏せや寝返り、だっこの姿勢等、運動発達を促す関わり方への助言、10か月児では、這い這いやつかまり立ちができないなど、運動発達に遅れが

見られる子どもに対する個別相談を担っています。

私は就学児童に関わる経験はありましたが、乳児に関わる経験は少ない状態でした。しかし、この事業に参加することで新たな知識や技術を習得し、研鑽を重ねることができました。這い這いやうつ伏せなどの動作の促しが上手くいくことも増え、保護者の安心した表情が見られたり、「（四つん這い）できましたねー」と喜んでもらえることが多くなりました。今後も、この事業を活用する市町村が増え、多くの子どもたちに技術を提供できる機会が増えることを期待しています。



東洋町での乳児健診にて

発達障害エキスパート事業

保育士さんに講演を行いました

理学療法士 近藤 友香

近年、子どもたちの運動能力が著しく低下しているといわれます。

今回、安芸市の保育士さんより依頼を受け、「遊びと運動、協調運動について」というテーマでお話をさせていただきました。

乳幼児期における運動遊びは、身体的な発育だけでなく、知的な面や社会的な面、情緒的な面など、心の健康にも大きく影響を与えます。しかし、社会的環境は大きく変化しており、幼児の生活環境にも影響し、日常生活体験の不足や運動遊びの減少につながっていると考えられます。

乳幼児期に歩行などの基本的な運動能力は獲得していても、運動の速度や正確性など協調運動に関する問題がみられることがあります。幼児期に運動遊びを通して多様な動きを身につけることで、運動を調整する能力も高まります。自分の体をうまく使うことができれば、大人になつてからの健康な生活にもつながります。

しかし、運動遊びはできる・できないが目に見えるため、できないことが苦手意識につながり、運動遊びを避けてしまうこともあります。そこで幼児期に自分の好きな、自分ができる運動遊びを楽しむように、

苦手意識を少なくしていくことが重要です。

保育のなかで、問題点が分かっているにもかかわらず運動遊びをしたら良いか分からなかったとの話も聞かれました。会では、具体的に子どもたちとの運動遊びの例を示させていただきました。具体例が参考になつたとおっしゃっていただき、うれしく思いました。

保育士さんの前でのお話は初めてだったので、保育現場で活用して頂けるようにと準備させていただきましたが、使っていただける内容になっていたと感じることができ、ほっとしました。



ELNEC-JG (End-of-Life-Nursing Education Consortium Japan) 指導者養成講座に参加して

内科療養病棟 看護師長 田村 文佳

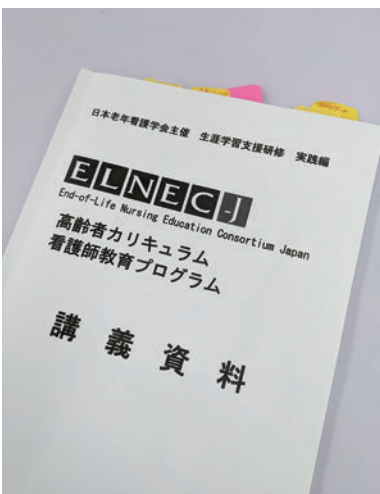
みなさんは、「エンド・オブ・ライフ・ケア」という言葉を聞いたことがありますか。これは、「病いや老いなどにより、人が人生を終える時期に必要なとされるケア」のことです。その人のライフ（生活・人生）に焦点を当てることや、疾患や時期を限定しないことが特徴です。私が、現在関心を持つており、これから取り組みたいと考えていることは、エンド・オブ・ライフ・ケアをみなさんに知ってもらうこと、そして多職種の方と共に、それを実践していくことです。

そのための第一歩として、上記の研修に参加させて頂きました。対面での研修は何年ぶりだったでしょうか。緊張して、研修初日は疲れ果てましたが、大先輩の老人看護専門看護師の方からの講義は、どれも心に染み込む貴重なものでした。そして、グループワークや休憩時間で参加者と語り合った、ケアの振り返りや情報交換は明日への活力となりました。

2日間の研修のなかで印象深く、また、みなさんにもぜひお伝えしたいことは、エンド・オブ・ライフ・ケアで大切にしている考え方は、「日々のケアを丁寧に行い、人間らしい姿を保つこと」で、高齢者の「尊厳を守る」ということです。尊厳、ということなにか難しいことのように感じますが、特別なことではなく、日々のケアの積み重ねなのです。高齢者のケアは、どこか単調で繰り返しのように見えるかもしれませんが、そこに価値を置いて、毎日続けていくことが大切になります。新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、そのような日々のケアさえ思うようになり、無念さを感じたこともありましたが、しかし、ケアの一つ一つを大切にしていることが大切であると、この研修を受けて再認識しました。

貴重な時間を割いて研修に参加させて頂いたので、エンド・オブ・ライフ・ケアの指導者となり院内だけでなく、高齢化先進県である高知県で活動していきたいと思えます。

貴重な時間を割いて研修に参加させて頂いたので、エンド・オブ・ライフ・ケアの指導者となり院内だけでなく、高齢化先進県である高知県で活動していきたいと思えます。



慶応義塾大学、孝養舎(看護医療学部校舎)での講義でした

企業研修に行ってきました

放射線室長 (医療機器安全管理責任者) 廣地 祿代

昨年末、医療機器メーカーさんより研修依頼があり当院での医療機器管理の話をして参りました。医療機器の安全管理は本来は臨床工学技士の業務ですが、臨床工学技士が在籍している病院は全国で約4割。透析装置や手術室のない病院に勤務することはまれです。しかしそれ以外の病院でも当然医療機器は動いています。機器が「使いたい時にすぐ使える状態」で、誰もが間違えず使えること、はとても大事で、ミスやトラブルがあればそれを丁寧に解決し次に繋げていくことが重要です。営業担当の皆さんには院内での部署連携の仕方や状況をお話しし、同時に今後の院内医療機器安全管理へのさらなる協力をお願いした次第です。

私自身、最初は「これ何の機械？」からのスタートでしたが、一昨年、第2種ME技術者試験をクリアし、今は突然の「ヒロチさん、壊れた」の電話にバタバタ走っていく毎日です。今後もメーカーさんとの信頼関係を大事に、新しい情報を得ながら医療機器の安全

しい情報を得ながら医療機器の安全に使用に反映していきたいと考えます。



| | 月 | | 火 | | 水 | | 木 | | 金 | | 土 | |
|-----|------------|--------|----|------------|------|----|----|----|-----|----|----|----|
| | 午前 | 午後 | 午前 | 午後 | 午前 | 午後 | 午前 | 午後 | 午前 | 午後 | 午前 | 午後 |
| 内科 | 山崎(第1) | 岩崎(第3) | 八木 | 清藤(第1・3) | 山崎 | 八木 | 八木 | 山崎 | 山崎 | 山崎 | 麻生 | 休診 |
| 精神科 | 八木(第2・4・5) | 交代制 | 大畑 | 八木(第2・4・5) | 藤戸良輔 | 大畑 | 廣瀬 | 内野 | 交代制 | 休診 | | |

芸西病院
令和5年4月1日

グループホームの節分とひなまつり

グループホームげいせい

介護福祉士

竹崎 恵子

2月3日は節分。古くから無病息災と、邪気を払って幸運が舞い込むようにと願って行われています。グループホームでは、節分の準備に皆で新聞紙を丸めた豆作りをします。また、レクの時間を使って鬼の面の塗り絵もしており、入居者さん達に「鬼は何色が良い？」と聞くと、ほとんどの方が「赤鬼！」とのこと。各々が鬼のイメージを膨らませながらお面の準備も行いました。



準備万端で迎えた節分当日、「鬼は外〜！福は内〜！」と、勢いよく年季の入った鬼のめがけて新聞紙の豆を投げる方、優しくそつと鬼の口に豆を入れる方、傍らで応援の声かけをしている方など、入居者さんそれぞれが個性豊かに行事を楽しんでおられました。いつもより俊敏な動きの入居者さんに職員はビックリ！元気を



さて能動的な事柄といいますが、そうそう遊ばないと、西瓜育てに挑戦、母の買ってきた数本の苗と一緒に植え、育った喜びを味わったものの、小玉ゴロゴロの中に大玉はひとつだけ。たぶん小玉の苗で、超大玉好きの私は少しばかりの物足りなさを感じました。やはり買ったほうが美味しいかと挑戦は一年で終了、翌年はその反動かひと夏で十五程購入し、これで熱中症も吹き飛ばし満足一杯。し

かし買い過ぎたか...とまたまた反動でその翌年の購入は一玉止まりでした。また、昨年より通い始めた子ども教室では、低学年生と一緒に宿題を、それに卓球やゲーム、鬼ごっこのお誘いを受け「鬼になつて」の言葉にハイハイと、有難くも子どもたちから元氣のおすそ分けを頂いています。

右手に「一生勉強 一生青春(相田みつを)」、左手に「なぜ成る為さねば成らぬ何事も成らぬはひとの為さぬなりけり(上杉鷹山)」を握りしめ、背中には龍馬(誕生日が一緒)を勝手に背負い前進あるのみ。しかも蠍座B型でマイペースな私。

今、ここ芸西病院でお世話になり「郷に入らば郷に従え」に習って少しばかりの社会貢献。このように、自分なりの人生を謳歌している珍道中好きのニューフェイス、今日この頃です。



リレーエッセイ No.73 「珍道中好きのニューフェイス」

検査室 臨床検査技師

包國 由子



マイナンバーカードで、健康保険証の資格確認ができるようになりました

医事課課長 有澤 智佐



マイナンバーカードをお持ちの方で保険証の紐づけをされている方は、病院受付にあるカードリーダーを用いて診察受付ができます。これで受診時に使用できる保険証の種類や番号など必要な情報がオンラインで確認できるようになります。

現在、受付時には「後期高齢」「国民保険」「社会保険」など持参された各保険証を月に一度拝見させていただいていますが、時々、住所変更や勤務先変更、また何らかの理由により保険証が変更になり使用できなくなっているけれどそのままになっている、ということがあります。その場合は保険証が使えず、後日会計に来て頂いていましたが、マイナンバーカードの場合、その場で保険証等の資格の有無を確認でき、そのためにお待たせすることもなくなり大変便利になります。マイナンバーカードは作成時に最大2万円のポイント給付が話題ですが、それだけではなく、マイナンバーカードで受診されると保険証を使用しての受診よりもちょっぴりお得になったり、また「高額医療費制度」を利用する場合、書類申請の手間や限度額を超えた分の一時払い手続きが不要になるのも嬉しいポイントです。さらに、特定健診情報や他院で処方されたお薬の情報も医師が確認できるため、診察時により正確な情報が得やすくなります。

マイナンバーカードをお持ちの方はぜひ使ってみてください。使用方法がわからない時は受付に気軽に声をおかけください。



介護福祉士 介護助手 調理師 調理員 精神保健福祉士 社会福祉士
ケアマネージャー 臨床検査技師 看護師

業務内容、勤務時間、待遇面等、詳しくはこちらまでご連絡ください

医療法人おくら会 **芸西病院** 安芸郡芸西村和食甲4268

電話 **0887-33-3833**

担当：事務局（田岡 有澤） 栄養科（近藤）



やわらぎ通信

リゾートビルやわらぎ
運営理念

その人らしさを尊重し
人と人とのつながりを大切に
明日につながるケアをめざす

「初詣に参加して」

作業療法士 今野 優希

令和5年2月15日にやわらぎ釣リクラブのレクリエーションで香我美町の若一王子宮へご利用者と一緒に参加させて頂きました。出発前よりご利用者の皆さんの嬉しそうな笑顔と「楽しみやね。」との声に私もつい笑顔になりました。海や手結の跳開橋等を車中より利用者と一緒に眺めながら、道中を楽しみました。

若一王子宮に到着後、ご利用者は足元に注意しながら賑やかな空気の中で順番にお参りを行いました。参拝出来たことで、新年を新たに迎えられると感じながらも、寒さには勝てず、「寒い寒い。早う。」と車に急ぐ様子もありました。今回のバスレクがご利用者の良い気分転換になったのではないかと思います。



3年ぶりとなる「第22回高知県介護老人保健施設大会」

施設長 中本 雅彦

令和5年3月4日(土)の午後、3年ぶりとなります高知県介護老人保健施設大会を開催しました。コロナ禍の感染対策からリモートの利便性を活かし、サテライトスタジオ2会場からライブ配信にて開催しました。大会会長施設治優園(四万十市)にて司会進行と特別講演を、大会パネルディスカッションのメイン会場を当施設にて実施し、モニターの向こうには県内老健施設仲間が110名程参加、認知症者支援(医療とケア)と仕事へのモ

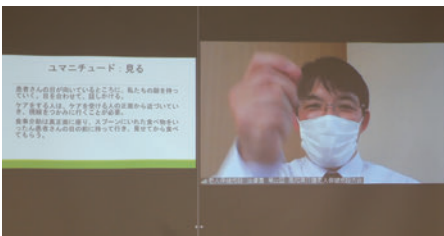


チベーション向上につながる講演と職員の新型コロナウイルス感染症第9波に備えての施設クラスター予防と対応について、貴重なエビデンスに基づく実践を学びました。

3年越しで第22回大会を実現して下さった大会長の竹本先生、並びに準備してくださった治優園・竹本病院職員の皆様から感謝申し上げます。また大会での特別講演をお引き受けいただきました渡川病院院長の吉本先生、ご多用のところ誠にありがとうございました。吉本先生とは高校時代の同級生でして公私ともに嬉しい再会・時間となりました。二人の母校追手前高校の時計台本館校舎は、国の登録有形文化財となります！

さて、多くの施設が経験しました新型コロナウイルス、一度クラスターが発生しますと、「人」と「感染対策グッズ」の人的物的資源の確保、常に化する感染情報に関する「適時適切な報・連・相と意思決定」、そして後に驚かされる「お金の現実」と多くの困難さに向き合うこととなりました。今回のパネルディスカッションでは、県立あき総合病院感染管理認定看護師、川野上氏にアドバイザーとして参加協力いただき、日ごろから基本となるスタンダードプリコーション、対策グッズの備蓄方法、感染症発生時の初動対応やゾーニングのポイント等について、3施設での報告を踏まえて的確な助言をいただき参加施設全員で共有することができました。

5月からは感染症法第5類移行となりますが、私たち老健施設は、多職種チームケアを強みに、大規模多機能老健サービスを展開しながら、感染弱者であるご利用者の生活と命を守り、更には地域を守るよう最大限の努力を続けて参ります。新年度を迎えやわらぎチームも新たとなりました。地域の皆様へ明日からも協働活動をよろしくお願ひ申し上げます。



講師 吉本先生



令和4年度高知県介護老健施設大会に参加して

言語聴覚士 岡林 智恵

この度は令和4年度高知県介護老健施設大会に参加させて頂きありがとうございました。老健で勤務する者として、他施設での取り組みについて貴重なお話を聞かせて頂く機会となりました。

特別講演では渡川病院の吉本先生より、認知症の病態を踏まえたケアのあり方について、現場の知見を踏まえたお話を聞かせて頂きました。例えば、前頭側頭型認知症では、いつも同じ行動を繰り返し、妨げられると激しく立腹されること、目で見たものや聞いたことに強く影響されるといった特徴があり、地域社会で生活していく上で大きなトラブルの元となっています。一方で記憶力は比較的保たれることが多いといった特性も指摘されています。これらの特徴を踏まえて、生活史やこだわりを活かしながら、安心してケアを受けて頂く工夫が求められています。また、本公演では認知症ちえのわねtについても紹介していただきました。認知症ちえのわねtは、もの忘れや徘徊など認知症者の介護に携わる上で悩みを抱えた方と情報共有するためのコミュニケーションツールです。最近では地域のネットワークやこのようなWebサービスを通し、ご家族様や他施設で認知症ケアに携わる方々、専門機関と繋がる場面は増えてきています。私もこれらの繋がりの中で認知症への理解を深めるとともに、地域の方々に有用な発信が出来るようになればと思います。

パネルディスカッションでは、コロナクラスターを経験された三施設の取り組みについてお話を聞かせて頂きました。当施設でもこの年末年始にクラスターが発生し、多くの学びと反省がありました。ことに感染拡大の中でいかにご利用者の病状を迅速に察知し情報を共有していくか、今後の大きな課題になっています。また、感染後の栄養状態の悪化を踏まえたりカバリーの実施や、週二回のレッドゾーン内での清掃など、各施設独自の対応も解説頂きました。クラスター拡大という緊急事態において、私達高齢者施設の職員は、感染防止と並行してご利用者の衛生環境と健康をどう維持していくか対応を求められています。どのような状況下でも、必要なケアを継続して提供していくことを、日頃より意識していかなければと考えさせられました。

最後に、私たち介護施設の職員は、ご利用者の生活を援助するこの仕事に、強い活力と熱意を持って臨んでいます。しかし、介護の現場は、他業種同様職員の離職や人手不足が慢性的な状態となっています。だからこそ、私達やわらぎの職員は大切な仲間がバーンアウトすることなく、仕事を続けられるよう職

種を越えて支え合っていきたいと常々考えています。

第26回岡山県通所リハビリテーションセッション研究大会に参加して

理学療法士 近藤 宏哉

令和5年3月5日、第26回岡山県通所リハビリテーション研究大会にリポート参加させて頂きました。午前中は「通所事業所の非常災害対策について」介護サービスを継続するために「」について岡山県危機管理監の根石憲司氏による特別講演を拝聴しました。平成30年7月に岡山県で発生した豪雨災害の話があり、ハザードマップとほぼ同じ範囲が浸水したと知り、予測の精度が高くなっていることに驚きを覚えたのと同時に南海トラフ地震への恐怖心も強くなりました。南海トラフによる被害想定ハザードマップをテレビやネットでも目にする機会が増えており、ハザードマップ通りの地震や津波が来れば高知県内は大変な被害になります。また、今回の講演の中に南海トラフ地震の話もあり、2m以上の津波で木造の家が崩壊する事を知りました。高知県は海岸沿いにあり、津波到達時間も短いと言われております。その為、事前に災害用バックを用意することや災害時の避難場所を確認する等の事前準備をすることで災害時の行動が少しでも変化するのではないかと感じました。

講演の中で災害用バックは季節によって中身を入れ替えることが重要だと言われておられました。確かに夏と冬では必要な物が違ってくるので皆様も災害用バックは季節の変わり目にはチェックするようにして下さい。

午後からはシンポジウムとして「Withコロナ時代の通所のあり方とは」のテーマで岡山県内の理学療法士2名と岡山県通所リハビリテーション協議会副会長がシンポジストとして発表しました。コロナ禍での感染対策や施設の運営方法などを教えて頂きました。検温・手指消毒・換気などの感染対策はどの施設も実施しておりますが、他施設との併用禁止やシートステイ使用後1〜2週間以内の利用禁止の独自ルールを設けている施設もありました。今後、コロナウイルス感染症が2類から5類に変更した後も引き続き感染対策を行う必要があり、感染予防の強化と緩和が繰り返されると思います。しかし、感染予防を強化しすぎるとご利用者やご家族のニーズに配慮することが出来ない事や、ご利用者の意欲の低下からQOLの低下に繋がる可能性が高いと感じました。その為、感染予防や対策を実施したうえでご利用者やご家族のニーズに寄り添い、意欲を引き出すリハビリを提供していく事が重要だと思えました。


祝 100歳
お誕生日
おめでとうございます
 3月で100歳になりました



ひなまつり



節分




面会再会

面会ができんときは寂しかった。ガラス越しで面会した時は声も聞こえるけど距離もあって顔も見えづらかった。直接会えるようになって声をかけたり触ったりすることでできるようになった。スキンシップできるようになって反応も全然違うように思う。やっぱり面会できるようになってうれしい。

という感じのツンデレで、ツンが9割を占めています。続いて「さかもと」で推定8歳の男の子です。アニメに出てくる猫の名前から名付けたと兄が言っていました。名前を聞いた時我が家では「なんでこんな名前をつけた！」と大騒ぎになりました(笑)。出会った時は推定2歳で、段ボールに入っていたのを見つけ連れてきたそうです。性格はすごく人懐っこくて甘えん坊です。腎臓が悪かったり、肛門腺が破裂したりと病院に通うこともよくあります。この2匹はあまり相性がよくなく、2匹を会わせるとチャミがすごく威嚇をします。そのため同敷地内の祖父母宅と我が家で離れて暮らしており、距離が縮まらないまま何年も経っている状況です。なんとか距離を縮めようと短い時間から会わせていますが、なかなか進展はありません。猫同士は仲良くないですが、人に対してはそれぞれの甘え方で毎日癒してくれます。これからも2匹が健康で長生きしてくれるのを願います。



まずは先住猫から紹介します。名前は「チャミ」で10歳の女の子です。出会ったときは生まれて数か月くらいで風邪をひいている状態だったそうです。弱弱しい声で鳴きながらすり寄ってきたため、動物病院へ連れて行きそのまま引き取ることになりました。性格はT H E・猫紹介したいと思います。今回は我が家の猫2匹を紹介したいと思います。

我が家の猫は2匹とも野良出身で、兄が広島に住んでいた時に会いました。兄が住んでいたところでは動物を飼うことができなかったため、実家である我が家に来たという経緯になります。

無我夢中 40

相談室 **山本彩加**